

第63回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和4年4月15日（金）午後6時30分～午後7時30分

場 所 市役所本庁舎第一会議室（WEB会議）

出席委員 9人

委員長 松田 恵 示 委員

副委員長 金尾 悠 香 委員

委 員 岡田 一 美 委員 鴨下 明 子 委員

橋田 壤 志 委員 森田 眞 希 委員

中村 彰 宏 委員 南 貴 之 委員

天野 建 司 委員

欠席委員 3人

村本 萌 委員 竹田 祐美子 委員

加藤 明 彦 委員

---

事務局職員

企画政策課長 堤 直規

企画政策課主任 野村 啓介

---

傍聴者 1人

（午後6時30分開会）

◎松田委員長 それでは、改めまして皆さんこんばんは。

◎事務局 こんばんは。

◎松田委員長 では、ただいまから第63回小金井市市民参加推進会議を開催したいと思います。

では、先んじまして、本日の欠席委員等の状況と配付資料の確認について、事務局よりお願いしたいと思います。

◎事務局 事務局です。

まず欠席等の連絡なのですが、村本委員、竹田委員、加藤委員から欠席の連絡が入っております。その他の委員の方はおそろいでございます。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則24条で半数となっておりますので、12人

中 9 人でありますので、本推進会議は成立しているということになります。

資料については、事前にメールで送付させていただいておりますが、次第が 1 枚と、それから資料 1、資料 2 の 2 点になります。御確認のほうをお願いいたします。

以上です。

◎松田委員長 ありがとうございます。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。

まず初めに、ここまで検討を続けております今期の提言についてでございます。では、まず事務局のほうから御説明をお願いいたします。

◎事務局 資料の 2 のほうを御覧ください。こちらが会議の行程表になっております。

前回の会議でお話していただいたとおり、今期の市民参加推進会議の提言の取りまとめについては、次回までに行うこととなっております。

本日、配付させていただいた資料 1 は、金尾副委員長に作成いただいた提言のたたき台となります。このたたき台について、本日は御意見等をいただき、御議論いただき、提言のほうにまとめていくというふうな運びを考えております。また本日の御議論の結果を受けた案をこの後再度議論して提言を確定させていく、その提言の実現ということになりますが、提言を踏まえた市長の意見回答のほうを最後の会のところでいただくというふうな運びになっております。ですので、今回、案の説明と御意見をいただく、次回、修正した案に御審議いただき、最終回のところで市長から御提言についての意見回答をとというふうにさせていただきたいんですが、進め方、次回についてはまた御相談させていただくこととして、まず本題のほうをお願いしたいと思います。

以上です。

◎松田委員長 ありがとうございます。

では、今、事務局のほうからも御説明ありましたけれども、今日含めてあと 2 回で提言を形にしていくということと、本日御意見をいただきつつ、もちろん会議の後にも気になることがあれば事務局のほうに御連絡いただくということを含めまして、意見を出して行って、それをまとめて行ってという手順で進めていきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、大変御尽力いただきますけれども、金尾副委員長のほうから、資料 1 に沿って御説明などをお願いさせていただきたいと思います。お願いいたします。

◎金尾副委員長 どうもありがとうございます。金尾でございます。

今日の資料は、前回の第 6 2 回会議の資料 1 をベースに、今までいただいた御意見や、後日メールでも頂戴した御意見もありますので、それらを反映して作成したものになっております。本日委員の皆様から御意見をさらにお伺いできれば、さらに反映させてブラッシュアップできればと思っております。

まず、1 ページ目の I、はじめにでございます。こちらは、市民参加条例を基に市政への市民参加の重要性を記載することになっております。文言は条例を参考にしておりますけれども、

今期の特徴としては、特に3段落目の「市民参加なき市政」「当事者意識なき市民参加」といったものへの警鐘を鳴らすとともに、市政を「自分事」として捉えることの必要性をうたうという、そういう内容になっております。御参照いただければ幸いです。

続きまして、同じく1ページ目、Ⅱのこれまでの経緯のところに入ってまいりたいと思います。こちらは、従来の市民参加推進会議で検討されてきた今期以前の紹介と、これらの位置づけを示した上で、それらと比較して今期、第8期推進会議の位置づけを記載する趣旨で書いております。特に、前回会議の最後の辺りで、前の期、7期から継続して委員をしてくださっている皆様の御認識をお聞かせいただいたというふうに記憶しておりますけれども、これらを反映して、第5期から第7期においては、若者をターゲットに絞っての市民参加推進という提言内容であったことを指摘した上で、その上で、今期では、より一層の市民参加を推進していくという、そういう今期の特徴を最後の段落で書いたという次第です。

付言しまして、今期は、対象を若者に限定することなく、より幅広い市民を対象にして市民参加を推進していくという認識をもった提言をしていくというふうに前回のところで確認させていただいておりますけれども、今期は、内容としまして、「そもそも市民参加とは」という大きな理念の課題が課題分析のところに出てきてまいりますので、第8期の特徴である、より一層の市民参加を推進する必要性といった内容が、この後3ページ目のⅢの1、前提の(2)というところ、3ページ目の上から4分の2辺りのところにありますけれども、こちらで対象を若者に限らず、幅広い世代と多様性、市民の多様性を認識した上で市民参加の推進をしていく必要があるんだといったことをもう一回記す形になっておりますので、本箇所1ページ目はこれまでの経緯のところの8期の特徴は2行で端的にとどめてあるというところを御理解賜れば幸いです。

こういった形でⅡまで終えまして、続きましてⅢ、提言の内容の中で重要なところになってくるのが課題を受けた提言というところから最後の6ページの半分まで続くこととなります。提言部分は、前回の御意見を受けて、場所によっては今までの会議で承っている御意見を列挙形式で記載しております。そのため長くなっている部分もございますが、市からの発信やフィードバックの見やすさなどもいろいろ御議論頂いているところもございますので、アンダーラインやキーワードを太字設定したりして関係を意識しているというふうなところも御理解いただければ幸いです。

2ページ目、内容について入ってまいりたいと思います。2ページ目の縦1、前提としまして、市民参加の在り方・目的・理想像といった大きな話題をまず問題分析していくという箇所に入ってまいります。

2ページ目の(1)でございますけれども、「市民参加」という言葉から、市民一人一人が市民参加をする場合に、そのミッションとして受け取る意味が違う場合があるということ、市民参加をするに当たっても市政と市民が協働するスキームといった仕組みにおいて市と市民の意思疎通が適切にできていない場合があることから実効的な市民参加のあり方を検討する必要

性、市民にもいろいろな人々がいるため、その多様性を認めつつ、それから、サイレント層を含む全市民のための市民参加の必要性、こういったことを①から⑤まで、3ページ目の上まででかけて指摘したという箇所になってございます。

そして、3ページ目に入っていただきまして、(2)のところでございます。先ほど申し上げたとおり、今期の会議が、従来までの第5期から第7期までで意識してきた「若者」よりもさらに広い視点で、一層対象を広げた市民参加を標榜するという今期の特徴を(2)で示しております。キーワードとしましては、「幅広い世代」、「立場意見の多様性」とか「個性化」といったようなものにより様々な市民の存在を指摘して、あと、初回の頃にあった御意見かと思えますけれども、今期はコロナ禍と共に始まってございますので、ここも含め、後々出てまいりますツールといったものの多様化もございますので、「時代に合う」といったことへの留意を指摘してまとめを記載した箇所になります。

ここまでで大きな前提としての「理想としての市民参加」の理論というものを一旦整理し終えたというのが3ページ目までの上半分ということになってございます。そこで、ここまでの理想への問題とか認識を整理した上で、3ページ目の下半分、2の現状と課題と題しまして、より具体的な提言のための分析に入っております。

(1)でございますけれども、問題認識としまして(1)、市民が市に対して意見を出しやすい、出たくなるような仕組みづくりと題しまして、問題点を分析したのがこの箇所になります。重点的には市民参加のツール、場所、環境について、手段そのものの不十分さ、それから、ツール環境があるのだという市の方からの御説明もあったところでございますけれども、それに対する市民側の認識の不十分さ、それからあとは、意見を言っても無駄なのではないかという心理的な側面からの市民参加の消極性の勃発、それから、市民の声のその後の不透明さといった問題認識から書かれているという箇所になります。キーワードとしては、「ツール・環境」、「意見のその後」といったものが挙げられるかなというふうに思っているところでございます。

続いて4ページ目になります。現状と課題の(2)でございます。市から市民への情報発信というところでは、市民の意見表明の手段がいろいろとあるのではないかと市民の意見表明における手段の多様性、それから、市側からも市民参加制度そのものへの周知がちょっと不足していて市民にはよく分からないのではないかとといった問題が整理できるかというところがございます。中でも、最後の3つ目の丸のところ、一番大きく今までの会議でよく取り上げられていたかと思えますけれども、3ページ目の3番目の丸のところと重複するところですけども、市が市民の意見をどのように受け入れているかというシステムが明確でなく、市民の意見の市政への反映という「意見がどうなったか」「その後」についてのフィードバックが発信されてないという問題があり、委員の皆さんからも意見や問いがあったかと思っております、「フィードバック」の必要性についてはよくご意見頂いていたかと思っております。

(3)のサイレント層へのアプローチ——市民の市政への関心とその表明の多様化——とい

うところがございます。幅広い市民の声を市政に届けるという理想の市民参加の認識から、今期よくキーワードで、「サイレント層」の市民の声についての課題があったと思いますので、こちらを整理している箇所になります。この箇所は、サイレント層という名称がいろいろな多義的なところもあるかなというところなので、市民にはいろいろな方がいらっしゃるということと、サイレント層とはいってもこのことについては何か発信するけど他のことはそうではないというような場合によって立場は異なることもあるということをも前提とした記述になっております。そういった多様性や個性は尊重することは当然として、そのうえで市民参加が従来までなかったような、例えば「言いたいのに言えない」とか「ツールさえ分かっていたら言えたのに」といったような、場合によっては、原因によっては、サイレント層の中でも市民参加を推進できることがあるのではないかと指摘されてきた問題を記載した箇所になります。

そして、次に入りまして、現状と課題の最後である（４）の市民と市政の自分事、当事者意識といったところがございます。本来的に、市政とか、そこに対する当事者意識を醸成することの重要性や根幹になるといったところがございます。「当事者意識」は市民が主体となり、市民への課題になるとは思いますけれども、市側に対しては「自分事」とか「当事者意識」を促すリードすることももとめられるという意味では、やはり市と市政との双方への課題として整理させていただいたというところがございます。

ここまでで市民参加に対する理想と現状の課題整理が終わりまして、５ページ目の後半でございます。縦３の課題を受けたところで、直接的かつ具体的な課題解決のための提言に入るといふようになります。今期は、大きな理想と問題分析、それから課題の洗い出しに時間をかけておりましたので、具体的な解決法の箇所について、もし反映されていないご意見・漏れや、表現等についてもご意見がありましたらお伝え下さると助かります。

５ページ目から６ページ目の上半分というところで、構成の基準としては、特に市民参加をしやすい「環境づくり」「ツールづくり」「雰囲気づくり」、雰囲気づくりというのはメールで頂戴したワードでございますけれども、当事者意識が持てるような、そういう雰囲気づくりというところがございますけれども、それから、転じて市民の声から市政への反映、その反映の市民への「フィードバック」「見える化」というものを推進していくとより循環とかが生まれ、市民の声の市政への反映が市民に伝わると市民参加が推進されるというところをワードとして議論が進んできた経緯に即して整理したという状態でございます。

具体的には、（１）でございます、５ページ目の３、（１）でございますけれども、市民の意見に対する市のフィードバックについて、「見える化」を徹底させる、それによって市民の声と市政とが循環するような環境づくりを促すべきであるというところで、市民の声がより届きやすくなり、届けたくなる環境づくりとして、市民の意見のその後の「見える化」を推進して、これを推進すると、更なる市民の声を生み出せるという循環型を意識したところがございます。

続いて５ページ目、最後の下３分の２ぐらいでしょうか、（２）のところがございます。市

民の意見を出しやすい環境づくりと題しておりますけれども、題名の分類としましては、今見た（１）と重複するようには見えるところがございますが、（２）のほうは、大きなつくりというよりはツール面を含めた多様な環境づくりというところに注目して、頂戴した御意見を列挙する形にしてございます。特に、②のようなSNSや二次元コードの利用、それから当事者意識とか自分事に対する市民への啓発を促していく留意点などについてできる限り指摘していくというところになってございます。キーワードは、アンダーラインで一応示そうとしているところがございますので、コロナの間、現在もそうでございますけれどもオンライン参加だと物理的な移動がないので参加しやすいとか、６ページ目の⑥のところは、サイレント層が意見を言いやすいといったときには、問題提示の具体性を意識したりとか、②のところのSNSの活用とかと重複しますけれども、サイレント層も反応しやすいような簡便な意思表示、マル・バツ形式とかいろいろな御意見があったところだと思いますけれども、できる限り簡易に、そして意見を拾い上げやすくする仕組みというのを議論があったところを反映させていただいたというところがございます。

そういった提言内容で終えておりまして、多岐にわたっているという形でございますけれども、できる限り市政に反映していただきたいというような内容でございます。

そして、本文最後、IV、おわりにおきまして、今までの課題整理と提言を、重複するところもございませけれども、まとめまして、今期８期以降、９期以降に一層の市民参加を期待していきたいというようなことを記載して本文を終えているということでございます。

それから、御説明の最後になりますけれども、資料１の７ページ目、８ページ目に図の提案サンプルを付加してございます。今まで提言における課題、それから解決を図式化というほどのものでもないのですが、図もあったほうが良いという御意見を賜ったかと思っておりますので、必要に応じまして提言内に挿入を検討できればなというところがございます。御覧いただきますと、サンプル図、全部で５個ございます。そのうち、市民の声に対する市政のフィードバック・見える化をしてさらなる市民の声を生み出すという、こういう循環を目指していくというコンセプトのものが重複しておりまして、中を見ていただければ、図式化なのでぱっと見てそのコンセプトが伝わらないと図として成功していないということになるんですけども、５個中４個そういう循環を示した図になります。残りの一つでございますけれども、これは７ページ目の一番最後の図になります。ここだけ伝えたい内容が異なり、これはツールの多様化を何とか図式化を試みたというところがございます。ツールの多様化を目指すべきという点を示した図が７ページの最後の図でございます。提言本文と併せて御参照いただければと思います。

長くなりましたけれども、今期の２年間にわたる市民参加の課題分析、それから身近なところから大きな理想の市民参加をかなえるための提言として以上の資料１をたたき台とさせていただきたく思います。まだ猶予もあるかと思っておりますので、本日を含め後日でもよろしくお取り計らいいただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上になります。

◎松田委員長 ありがとうございます。

ここまで議論や前回でしている提言の核に向けて出していただいている意見を本当に短期であっても御整理していらっしゃるなど改めて誠に感謝します。ありがとうございます。また、最後のイラストも大変面白いイラストで、今御説明あったとおりですので、この辺りについて御意見ございますでしょうか。こうやっていただければありがたいな等御意見いただけたらと思います。

では、いかがでしょうか。できるだけざっくばらんに思われたこと、お気づかれたこと、大小それぞれ問いませんので、御意見いただけたらありがたいなと思います。いかがでしょうか。

オンライン上で一瞬目が合ったように感じましたのでお願いいたします。

◎森田委員 私も提案させていただいた点とかは、参加を求められてもその環境づくりというところをすごく気になってメールをさせていただいたので、それも入れて、副委員長に入れていただきました。ありがとうございます。

あとは、何となく市民として求められるところはとても多いなというざっくりな印象なんですけれども、では、さっきの図でいくと、市政として何かフィードバックとする、求められるものって何かなとか、そういったことを今思いながら読ませていただきました。せっかく目が合って指名していただいたのにまともじゃなくてすみません。

◎松田委員長 いえいえ、とんでもないです。

◎森田委員 ありがとうございます。

◎松田委員長 本当に自由に御発言いただけたらと思いますので、まともなくても全く問題ございませんし、今のは非常にまとまった御発言だったと思いますので。

いかがでしょうか。大変恐縮いたしますが、お名前を挙げさせていただきたいと思います。鴨下委員、いかがですか。

◎鴨下委員 こちらのたたき台の提言を読ませていただいて、すごく共感をする、本当にそうだなという思いでいっぱいです。これを読んで、出来上がっちゃったような気分。これを読んで多くの方が参加したいとか目指すことができるという感じだと思いました。

以上です。

◎松田委員長 ありがとうございます。

橋田委員お願いします。

◎橋田委員 一番下の図の説明とかも本当に分かりやすく、それで今度市民の声がたくさん届くようになったと仮定して、そうすると、SNSとか、今の時代とか一気に向かう、ちょっとずつというか、何かあると一気に増える可能性はあると思います。あと、サイレント層の意見が入ったら本当に思い切りのあった意見も拾えたときに、それを今まで1にまでいかないような、0.幾つみたいな意見をまたまとめて、それをどう市政に反映するか。この部分についての意見集約というところの仕組みが大切だと思います。

◎松田委員長 ありがとうございます。

本当におっしゃるとおりだと思います。そういう中で、もし関連してでも結構ですし、全く違う観点でということでも結構ですけれども。

南委員お願いしてもよろしいですか。

◎南委員 8ページ上段の図と7ページ上段の図を見える化の方法につなげると、一つにまとめて、一つの図で完成できるんじゃないかというのをちょっと思った次第です。

すみません、以上です。

◎松田委員長 ありがとうございます。

金尾委員、いかがですか。

◎金尾副委員長 そうですね、ありがとうございます。なるほどと思いました。なるほどと思ったんですが、恐らく今、南委員から御指摘を受けた7番目の図とどういうふうに循環型を示すかと思えますというか、8ページ目の上のほうがこの大きい図的になりますので、8ページ目の図の市民のところをどうしましょうね。8ページ目の左から半分とかをツール・媒体の適正化とかをつなげたり、そうすると、フィードバックももちろん多様化していくよねとかいうのが次の課題に恐らく連鎖して出てきてしまうので、それも問題として入れちゃいますかとかいうのがちょっと思った、新たな問題として出てきたんですが、そういった形ではもう1点入れられるかなという、ぱっと今お伺いした形ではそういうことになるのかなと思っております。ちょっとそれがどこまで図でできるかなという、今ここでは回答できないんですけども、ちょっと頑張ってみますという形ですね。今、申し上げたようなものが恐らく一番近いかな、一つの図としてまとめるならばという形で御回答とさせていただきたく思います。なるほどと思いました。どうもありがとうございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。

あと何かないでしょうか。

中村委員、もしお願いできましたらよろしいでしょうか。

◎中村委員 中村です。

さすが大学の先生であられるだけあって、見やすくポイントをアンダーラインとか図示されて、まとめられて、私としてはもう申し上げることはなく、もうこれで完成できているのかなというふうに思っております。ありがとうございます。また、図もいろんな図をつけていただいて、大変分かりやすくてさすがだなと感心いたしました。ありがとうございました。いろいろ時間もかけて丁寧にお作りいただいた痕跡が至るところにありますので、ありがとうございます。

◎金尾副委員長 大変恐縮です。でき得る限りブラッシュアップさせていただきたいと思しますので、御意見を賜れば幸いです。事務の方からも、市のほうからも、私が調べ切れてないところ、二次元コードという単語が出てきておりましたけど、違うワードで権利関係にちょっと引っかかるような言い回しとかもして、市の皆様から御指摘を受けたところでございますので、ぜひ御教示賜れば幸いです。ありがとうございます。



◎松田委員長 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

岡田委員、お願いしてよろしいですか。

◎岡田委員 分かりやすく作っていただいて、本当に中村委員と同じ意見で、すばらしいなと思いました。

図のことなんですけど、8 ページ目の上の図が私はあまりちょっと理解するのができなくて、ほかの図はすごく分かりやすかったんですけど、ここをさらで見たときに、理解できるかなと一瞬思いました。

私も4年前からやっているんですけど、全ての意見をすごく上手にまとめていただいていて、本当に申し分ないと思います。

以上です。

◎松田委員長 ありがとうございます。

森田委員、お願いします。

◎森田委員 岡田委員、私もです。8 ページ目の上の図が分からなかったんです。

◎松田委員長 金尾委員いかがでしょうか。

◎金尾副委員長 大変失礼しました。先ほどの図の合体ベース8 ページ目案はなくなったということに今確定したかと思いますが、7 ページ目の上2個と8 ページ目の下半分とコンセプトは同じなんですけれども、8 ページ目のほうは、循環がうまくいってないときの図という意味でちょっと違うんです。7 ページ目の2つのほうは、うまくいっている循環でぐるぐる回っているという図で、8 ページ目のほうは、市民の声は市政に届くんだけれども、それがどうなったか分からないので、右の市政からはてな、市民のほうへは点線でフィードバックがない状態を示しているということであります。市政から右側のはてなのウサギみたいなものがあるところに点線でフィードバックがないがために、市民の声も次のところに行けないのだという意味で、下の矢印が、同じ市民なんだけれども、次の左側の市民のほうに届かないので、本来はあるべき点線の矢印がうまくいってなくて「禁止・行き止まり」の×がついているという図でございます。左側のいっぱいたくさんいる人たちの群衆と右側の群衆とが基本同じ市民を示しているのですが、意見を言った左側の市民の声が結局のところどうなったの的に、はてなで右側の市民が困惑しているので次の市民の声を生み出さないという図を示しております。なので、うまくいった図としては、7 ページのほうの方がうまく示しているのかなと思いますので、そうすると、先ほどの南意見の御意見と岡田委員の御意見をいただきまして、うまくいくときに図をツールたくさんで、市政から市民の声をいろんなツールを介していき、そして恐らくフィードバックもいろんな媒体を通して示してくれたほうが次の市民の声につながるぞという形の、市民と市政をつなげる矢印がたくさんになっていくというのが示せるかと。市政と市民の間のツールが7つと7つで循環する状態、矢印が14本くるくる回ると回る図というのが多分一体化させた図になろうかなというふうに今のところ想像しております。取り急ぎ8 ページ目の図の

意味を御理解いただければというか、ちょっと補足とさせていただきます。よろしくお願いたします。ありがとうございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。うまくいったときとうまくいかなかったときというですね。

そうしましたら、天野委員のほうから、お話しできることが可能でしたらお願いしたいと見ますけれども、いかがでしょうか。

◎天野委員 今回、提言案を作成いただきまして、本当にありがとうございました。

課題を受けた提言のところで一言申し上げますと、やはり（１）のところ、環境づくりを促すべきであるというところにつきましては、やはり時代に合わせてこれから変えていかなければならないというふうに思っておりますので、このようなことを考えていくというふうに思っております。

２つ目のほうの環境づくりをする具体的にはのところで、①のところでございます。市民参加条例につきましては、やはり平成１６年あたりから施行されているので、時代がかなり変わっています。なので、市民の方々だけではなくて、やはり行政としてもこういった市民参加条例について改めて理解して、周知徹底等を図っていくことが必要かというふうに思います。

そして、②のところで、SNSとか二次元コードの利用につきましては、これからも大事だと思うし、議会のほうからもこういったようなことも言われておりますので、こういったツールを充実していくということをやっていきたいというふうに思います。

そして、３つ目のところは、やはり若い方々、若年層のところだというふうに思いますので、前の市民参加の皆さんにもお話をいただいておりますので、若者に対するこういった御意見もありがたいというふうに思います。

４つ目のほう、窓口アカウントやツールの重複、統一化も整理の必要ということでございますが、これから小金井市のほうもDXについて推進していかなければなりませんので、こういったことも必要かなというふうに思います。

それから、５つ目につきましては、こういったことはやはり市民参加、審議会辺りでも非常に大事だというふうに思っています。雰囲気づくりということが不可欠であるというようなことを書いていただきましたが、これまでも市民参加推進会議のほうでも考えてきているというところで、ワークショップなどもやってきたので、こういったことも非常に大事だというふうに思います。

それから、６つ目のところです。サイレント層というのは非常に大事だというふうに思います。なので、こういった方々たちがどうやって市民参加に入ってもらえるかということは大事なんですけれども、まずは、当事者意識を持っていただけるためには、まちへの誇りと愛着を醸成し、選ばれるまちづくりを進めることが大事です。小金井市の第５次基本構想がスタートしているんですけれども、そういったことで、誇りと愛着を醸成し、選ばれるまちづくりを進めてまいりますので、そういったところでサイレント層が、できれば次に市民参加のほうに

入っていただけるようなことを小金井市行政としても進めていくようにしなければならないというふうに思いました。

いずれにいたしましても、やはり今、新型コロナウイルス感染症により大きく変化した生活を的確に考えなければならないということもあります。そして今、ポストコロナ、新しい生活様式の実践というようなことも言われますので、こういった市民参加においても、こういったことも考えたようなことを進めていかなければならないのかなというふうに思います。なので、デジタル改革、デジタルトランスフォーメーション、そういったものも、市民サービスの向上も含めて、市民参加に書かれているようなことも含めて考えてまいりたいというふうに思うところでございます。本日はいろんな提言案をいただきましてありがとうございました。

以上です。

◎松田委員長 ありがとうございます。

一通り御意見を伺ったところなんですけれども、いかがでしょうか。その他の委員の方の声を聞かれてさらにとか、少し言い足りなかったなというようなことがありましたら御意見を願いたいと思いますが。

僕はすごい細かいことでちょっと申し訳ないんですが、全体のほうは皆さんおっしゃったとおりなので。すごく分かりやすいイラストの前提になっている「生活導線」という言葉なんですけれども、これは動くという漢字を書く場合と導くという漢字を書く場合があって、それは使い分けないときもありますし、使い分けるときもあるというような言葉かなとちょっと思ったりしています。通常、生活の動線、例えば家の中での動線みたいな話をするとき、動くほうになるとは思いますけど、百貨店なんかで、例えば6階に何を置くとか5階に何を置くとか、そういう話になったときには、お客様を導くというような意味で導線ということを使って、この辺り、意味として両方あるから本当に、逆にそれで深みがあるなとちょっと思うところがあるんです。ということで、ドウセンという言葉は面白いので、何かうまくさらに使えればいいなと思ったのと、導線が多岐にわたるという面と、そもそも導線上に情報とか接点があればいけない趣旨というのも同時にあるのかなとあって、そんなことも少し何か含まれるとさらに面白いなと思ったというような次第です。

ピンポイントで申し訳ないんですけれども、以上でございます。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、もしもう少し御意見や御質問みたいなことが生じましたら、1週間程度の範囲で事務局のほうへさらに御連絡いただくということで、最終的には、金尾委員と事務局のほうで取りまとめいただくという形で進めさせていただければと思います。金尾委員その様な形でよろしいでしょうか。

◎金尾副委員長 かしこまりました。今日いただいた御意見も反映させられるだけ反映しまして、メールとかいろんな、それこそツールで御意見賜ればぎりぎりまでやってまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。

そうしましたら、次第1のほうはひとまずこれでまとめさせていただきまして、ここに次第2ということで、推進会議の開催日について事務局から少しお話をいただければと思います。よろしく願いいたします。

◎事務局 事務局です。

冒頭に御説明させていただいた資料2の関係なんですが、今後のスケジュールでございます。今期はあと2回あることとなりますが、最終回は提言を受けて市長から回答させていただく回というふうになりますので、あと1回で提言をまとめていただくという運びになります。そこはちょっと考え方で、またこのように開催をさせていただくのか、リアルの問題でもありますが、それとも次回は修正した案をメール等で共有させていただく形で書面とするというふうであれば、開催しないで6月に最終回の運びになります。5月に1回挟むか、挟まずに6回となるかですね。次回の会議がある場合は、5月中に検討させていただくとして、改めて調整させていただきたいと思います。もしある程度すんなりとというか、修正案のほう、最終的な提言がまとまるようでしたら、逆に事務局にお時間をいただいて、最大限の実現というところに向けた役所内での期間に使わせていただきたいというふうに思っています。改めてその辺は相談させていただきたいと思います。

◎事務局 一言で言えば、あと2回ありますが、最終回は市長からの回答となりますので、真ん中に1回5月に挟むかどうかは進捗の状態です。改めて御相談させていただきたいということでございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。

今の事務局からの日程の御提案ということ、皆さん、そういう形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

本当に金尾委員、最後まで本当にお手数をおかけしますが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

◎金尾副委員長 ありがとうございます。またお戻しさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

◎松田委員長 議事のほう、予定されていたものは以上でございますが、委員の皆様方から何かそのほかでございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、以上をもちまして第63回の市民参加推進会議を閉めさせていただきたいと思います。どうもお忙しいところ今日もありがとうございました。

(午後7時30分閉会)